

## 9 図書館及び図書等の資料、学術情報

### 【目的・目標】

図書館は、教育及び研究調査に必要な図書資料を収集・整理・保存して、本学教職員及び学生等の利用に供することを目的としている。今後、より一層教育研究等を支援するため、学生の知的興味の喚起、利用環境、利便性の向上、地域住民への情報発信及び地域への開放促進を目標とする。

### 9-1 図書、図書館の整備

#### 9-1-1 中央図書館

##### (1) 図書、学術、視聴覚資料等の整備

### 【現状の説明】

図書の受入冊数については、2006年度、和書2,455冊・洋書536冊（計2,991冊）、2007年度、和書1,549冊・洋書618冊（計2,167冊）、2008年度、和書1,626冊・洋書511冊（計2,137冊）であった。視聴覚資料の受入数は2006年度235点、2007年度56点、2008年度38点であった。雑誌所蔵タイトル数は2006年度末では和雑誌253タイトル・洋雑誌351タイトルで、2007年度末、2008年度末ともに2006年度と同じ和雑誌253タイトル・洋雑誌351タイトルである。

学術雑誌の購入については書架の狭隘問題、利用者への利便性提供、最新版の入手等により、紙ベースの冊子体からwebでの電子ジャーナルへ順次移行しており、2008年1月から本格導入を行なっている。

中央図書館では2006年度蔵書冊数が17万冊を超え、書庫（収容能力約18万冊）の余剰収容能力の限界が近づいた。特に工学部で購入している和雑誌・洋雑誌の書架がほぼ満杯となり、また、2階、3階に配架している一般図書でも、一部の主題（電気工学～生活科学、産業～語学）では余裕が無い状況が続いている。

このため、2006年度は、応急措置として第2準備室に仮書架を設置した。また2008年度には除籍取扱い要領を定め、具体的運用規準に則り除籍をおこなっている。

### 【点検・評価】【長所と問題点】

収容能力の問題については、今後、同規模他大学の学生数、図書予算等を比較検討し、本学の適正な蔵書数を考慮する。それを基に、これからの受入図書数、除籍すべき図書の数を図り、運用計画を作成する。

また、図書購入の基本理念を明確にし、学生、教職員の利用を考え、効率の良い予算執行を実施し、課題として持ち越しされている書架狭隘問題を解決する。

狭隘問題とも関連するが、昨今の図書館IT化による利用環境の変化に伴い、利便性向上のため、2008年1月から電子ジャーナルを本格導入した。

これは、従来の冊子媒体による洋雑誌購入の相当部分を電子媒体に切り替えることにより、洋雑誌（論文・ジャーナル）へのアクセス環境の向上、書架狭隘問題の緩和を図るものとなっている。

この導入により、2007年購入冊子体が129タイトルに、2008年は冊子体26タイトル、電子ジャーナル約9,000タイトルとなった。

## （2）図書館施設の規模、機器・備品の整備

### 【現状の説明】

中央図書館について、厚木キャンパスの学生収容定員に比して閲覧座席数が少なく（現状9.2%）、改善が指摘された。（2007年度大学基準協会からの大学評価による）

### 【点検・評価】【長所と問題点】

閲覧座席数については数値目標を10.0%として約40席増加させるため、個人机を中心に現在のスペースに配慮しつつ配置し、年次を追って改善する。

## （3）図書館利用者への利用上の配慮

### 【現状の説明】

#### （1）開館日数、開館時間及び入館者数

開館時間は平日が9時10分～19時30分、土曜日が9時10分～17時であり、貸出は閉館10分前迄である。なお、夏季・冬季休暇中は17時までである。図9-1に過去3年間の開館日数間と入館者数を示す。

図9-1 中央図書館の入館数

年 度	2006	2007	2008
開 館 日 数 (日)	281	282	284
入 館 者 総 数 (人)	134,032	117,644	109,326
平均入館者数 (人/日)	477	417	385

#### （2）貸出条件及び貸出数

館外貸出の対象資料、期間、冊数等は利用規程によっている。学生は冊数は、8冊/30日、教職員は30冊/90日となっている。図9-2に中央図書館における図書の貸出状況を示す。

図9-2 中央図書館における図書の貸出状況（冊）

学 部	工学部			芸術学部(厚木)			工学研究科		
	2006	2007	2008	2006	2007	2008	2006	2007	2008
貸出延冊数	10,315	8,838	7,770	10,596	10,867	10,593	960	1,085	1,150
1人あたり貸出冊数	4.0	3.8	3.8	6.1	5.6	5.1	15.1	11.4	11.1

### (3) レファレンスサービスと相互協力

中央図書館は他大学の図書館などの他機関との間で、文献複写や図書貸借などのレファレンスサービスと相互協力を行っている。図 9-3 に 2006 年度から 2008 年度の実施状況を示す。

図 9-3 レファレンスサービスの相互協力状況(件)

区 分		中央図書館→他機関 (依頼)						他機関→中央図書館 (受付)			
		学 生			教職員			2006	2007	2008	
年 度		2006	2007	2008	2006	2007	2008				2006
調 査	所蔵調査	0	6	0	2	3	7	2	2	0	
	参考業務	文献複写	504	296	222	765	440	289	414	375	296
		図書貸借	9	7	5	44	16	46	9	15	10
	紹介状発行	5	1	0	2	0	3	38	13	0	

### (4) 利用者教育

2006 年度、2007 年度も前年度から引き続き、授業の一環としてナノ化学科、コンピュータ応用学科の各 1 年生に、授業の一環として図書館の利用について説明を行った。なお、利用者マナー向上のため、館員による館内定期巡回を毎日実施した。2008 年度も前年度から引き続き、授業の一環としてナノ化学科、コンピュータ応用学科の各 1 年生に、授業の一環として図書館利用と情報検索について演習を受け持った。また、大学院生、卒研生に対して電子ジャーナルとデータベースの利用講習会を開催した。利用しやすい環境を保つため、館員による館内定期巡回を毎日実施した。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

土曜日の開館時間延長については館員勤務時間のシフト、学生アルバイトの増員など、人件費増の問題を含め検討する。なお、図書館閉館後の学生のための自習スペースとして、学生会館や各学科の教室、談話室等が学生に開放されており、22時00分まで利用が可能である。

### (4) 地域への開放状況

#### 【現状の説明】

厚木市の市民図書館との協定により、従前より市民図書館に無い図書の貸し出し等の形で地域に公開していた。2005 年度より大学公開講座の参考書籍を可能な限り図書館に用意し、公開講座の参加者の中で希望者には館外に貸し出すようにしている。また、2004 年度から高校生向けに夏休み期間中の図書館利用開放を行っている。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

2006 年度の公開講座では登録者が 14 名、貸出冊数は 39 冊、夏休みの高校生への開放は 3 名であった。2007 年度公開講座では登録者が 15 名、貸出冊数は 31 冊、夏休みの高校生への開放は利用者無しであった。2008 年度公開講座では登録者が 6 名、貸出冊数は 2

7冊、高校生への開放は2名であった。

夏休みの高校生利用が低調なのは、本図書館には高校生に人気のある一般図書が少ないこと、キャンパスへの交通の便が悪く、学習スペースや学習環境の利用目的としても利用者居住地域が限定されるためと思われる。図書館ホームページ、厚木市内配布の一般広告紙に掲載し、周知を図っている。

## 9-1-2 中野図書館

### (1) 図書、学術、視聴覚資料等の整備

#### 【現状の説明】

総受入冊数は、2006年度は和書1,014冊・洋書326冊（計1,340冊）、2007年度は、和書750冊・洋書283冊（計1,033冊）、2008年度は、和書783冊・洋書409冊（計1,192冊）であった。雑誌所蔵タイトル数は2006年度、和雑誌181タイトル、洋雑誌88タイトル、2007年度は和雑誌、洋雑誌とも前年度と同じ、2008年度和雑誌190タイトル、洋雑誌88タイトルであった。

資料の収集・受入管理に関しては、芸術学部の図書館として特色ある資料の収集につとめ、写真集、映像関連、デザイン関連の図書を購入している。その収集については、各学科及び基礎教育課程の図書委員が学科、課程からの希望をまとめて、図書館にて重複調査実施後、購入注文を行なっている。また、学生からのリクエストも配慮し、購入希望図書を募っている。学術雑誌、一般雑誌の購入については図書委員会で審議し決定している。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

2006年度に貴重図書コレクションとなっている「ダ・ヴィンチ素描集」「東京百景色・歌川広重」「東海道五十三次・歌川広重」を展示ケースにて公開した。2007年度も蔵書紹介の一環として、「美しい星へ」「東山魁夷と唐招提寺」等を開催し、関連図書貸出の増加を図った。2008年度は「中野図書館貴重書」展から始まり、「Ukiyo-e—世界に誇る浮世絵“師宣・春信から広重・清親まで”—」展等、浮世絵を中心に所蔵図書を公開した。

古雑誌の有効活用として、保存期限の切れた一般雑誌の学生への提供の、学生への提供を2006年度から開始した。図書館2階カウンター前にコーナーを設け、図書館利用を促進させる一策とした。

### (2) 図書館施設の規模、機器・備品の整備

#### 【現状の説明】

大学基準協会による大学評価にて、閲覧座席数の不足が中央図書館と同様に指摘されている。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

厚木キャンパスからの学生収容定員の変更に伴う閲覧座席数の不足に対処すべく、図書

館スペースの拡充を図り、個人機を中心に順次配備する。また、蔵書構成についても、学科の要望に応えるよう配慮する。

視聴覚コーナーのレイアウトを変更し、周囲を気にせず、集中して視聴できる環境整備を実施し、利用者からの評価も得ている。

図書館2階の蔵書検索システム(OPAC)専用パソコン横に、写大ギャラリー所蔵写真の検索パソコンを設置し、2007年3月から利用に供している。

### (3) 図書館利用者への利用上の配慮

#### 【現状の説明】

##### (1) 開館日数、開館時間及び入館者数

開館時間は平日9時10分～20時、土曜日9時10分～17時である。夏季・冬季休暇中は17時に閉館している。過去3年間の入館者数は図9-4のとおりである。

図9-4 中野図書館の入館数

年 度	2006	2007	2008
開 館 日 数 (日)	266	267	274
入 館 者 総 数 (人)	21,366	18,678	17,404
平均入館者数 (人/日)	80	70	64

##### (2) 貸出条件及び貸出数

館外貸出の対象資料、期間、冊数等は利用規程によっている。学生は冊数は、8冊／14日(1年生～3年生)、8冊／30日(4年生、大学院生)、教職員は30冊／90日となっている。図9-5に中野図書館における図書の貸出状況を示す。

図9-5 中野図書館における図書の貸出状況(冊)

学 部 年 度	学部生			大学院生		
	2006	2007	2008	2006	2007	2008
貸出延冊数	3,844	3,694	3,916	437	374	349
1人あたり貸出冊数	6.4	5.8	6.2	14.1	12.0	12.0

##### (3) レファレンスサービスの相互協力

図9-6にレファレンスサービスの相互協力状況を示す。

図9-6 レファレンスサービスの相互協力状況（件）

中野図書館→他機関（依頼）							他機関→中野図書館（受付）			
区 分		学 生			教職員					
年 度		2006	2007	2008	2006	2007	2008	2006	2007	2008
調査	所蔵調査	7	1	0	4	1	0	2	0	0
参考業務	文献複写	1	0	0	2	0	0	1	0	0
	図書貸借	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	紹介状発行	2	1	0	2	1	0	2	0	0

#### （4）利用者教育及び広報活動

図書館の活用法の説明を新学期ガイダンスにて3年生及び大学院芸術学研究科博士前期課程1年生を対象に実施している。情報リテラシー教育の一助として、「OPAC 検索の手引き」の小冊子を作成した。

また広報活動として、従来の内容を一新した「中野図書館報 No.8」を2008年2月に発行した。所蔵の貴重書の紹介、その展示開催の告知、芸術学部ならではの資料紹介等を記載し、庶務課発送の公開講座の案内1,500部にも同封した。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

利用者の便宜を図り、2007年4月から平日の開館時間を1時間延長し、20時に閉館している。また、2007年7月から、学部1年生から3年生までの貸出冊数を4冊から8冊に倍増した。

2006年4月から、事務処理について、全面的に榊伊國屋書店に業務委託し、専門知識を有する人材の配置をもとに、図書館サービスの向上を目指している。

また、文部科学省の2006年度私立大学等経常費補助金「私立大学教育研究高度化推進特別補助」を申請し、採択された。芸術学部図書館として特化させた利用者サービスの拡大と教育・研究支援体制の改善強化を3年間で充実させなければならない。

#### （4）地域への開放状況

#### 【現状の説明】

生涯学習に対する関心の高さに呼応して、公開講座受講者を中心に地域社会への開放を積極的に実施している。サービスの内容は、閲覧・文献複写のみであるが、講座受講者には貸出も行なっている。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

利用者の多くは、すでにweb上で検索をして来館するパターンが多い。目的は本学図書館の専門収集領域である写真関係の資料閲覧が主である。

## 9-2 学術情報へのアクセス

### 9-2-1 中央図書館

#### 【現状の説明】

中央図書館では主に学科の専門を中心として教育用・研究用の学術情報の収集を行い、OPAC で学外からのアクセスも可能な環境を整備している。本学に所蔵のない資料に関しては NACSIS-IILL、JST、国会図書館、BLDSC(英国国会図書館)などから入手している。また、NII 文献複写料金相殺サービスにも加入している。

また、神奈川県内大学図書館協議会による図書の貸出が可能であるが、利用実績は無い。私工大懇話会(首都圏私立工科系13大学で構成)図書館連絡会加盟大学図書館間では利用者が自由に他大学図書館を利用し、貸出を受けられるシステムが確立されている。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

2008年1月からの電子ジャーナル本格導入により、海外の文献資料の検索等が格段に便利になり、必要とされる学術論文等も自分で入手できる。このため、レファレンスサービスの受付件数も格段に減少してきている。

図書館ホームページの中で、電子ジャーナル、データベースに直接アクセス出来るシステムを作っており、24時間対応可能である。

### 9-2-2 中野図書館

#### 【現状の説明】

図書館ホームページを開設しており、書誌情報の検索・提供は web 上の OPAC で学外からもアクセス可能な環境を整備している。また、ホームページのリンクをとおして NII をはじめ、他大学図書館、他機関等外部の蔵書検索も可能である。他大学図書館・他機関との連携は、図書館サービスの一環として行われている。

#### 【点検・評価】【長所と問題点】

NACSIS の目録所在情報サービスを利用して、目録業務の標準化・省力化を図っている。図書館や研究室で購入した学術文献(図書・雑誌)は上記サービスを利用することにより、迅速に処理され提供されている。

#### 【図書館及び図書館等の資料、学術情報に関する将来の改善・改革に向けた方策】

##### (1) 中央図書館

必要蔵書量を長期的に見積もり、書庫増設計画を検討する。2008年1月からは電子ジャーナルを大幅に導入し、利用を開始することが決定しており、導入後はその状況を踏まえ、資料の電子化・ネットワーク利用化を検討する。また、学生からの希望の多い分野を充実させ学修図書館としての機能を強化すると共に、視聴覚資料数の増大に伴い視聴覚設備の充実を図る。さらに地域への情報発信に関しては、ホームページなどを通して積極的に

う。

## **(2) 中野図書館**

芸術学部図書館として図書資料だけではなく、美術館・展覧会の開催情報や、芸術系他大学の卒業制作等のカタログ類の収集に今後も力を注ぎ、学生の知的興味・関心を高める。また、研究活動の活性化のため、他大学等とのネットワークの強化や、利用環境のデジタル化、他大学関連情報の提供などを充実させる。また、情報化社会は日々進展しており、利用者のニーズに即した機器備品類の整備が今後不可欠となることから、資料のデジタル化が加速している現状を踏まえ、CD-ROM・外部データベース等の利用も視野に入れ、利便性の向上に努める。

地域への情報発信に関しては、本学図書館の特色を活かし、地域住民の関心を高めてもらうために、図書館利用案内をはじめ、各種情報源へのリンク等、ホームページの充実を図る。また、写真、デザイン、美術関係の貴重なコレクションを所蔵している特性を活かし、学生、地域住民を対象とした展示会及び講演会を実施する。

図書館地域開放への施策として、所蔵貴重図書のデータ化、アーカイブ化を推し進め、その内容を大学ホームページにて公開することが、大学の知名度向上にも繋がる。

## **(3) 学術情報へのアクセス**

情報過多の時代にあって特色ある学術情報データベースを構築するために、本学の教育・研究の基本方針に沿った重点的収集を行う。

また、館内での PC の提供、無線 LAN 環境の実現、マルチメディア利用スペースの設置等について検討し、情報アクセス支援の充実を図る。